

都市再生整備計画(第3回変更)

たいら
平地区

ふくしま 福島県 し いわき市

令和4年3月

| 事業名 | 確認 |
|-----------------|-------------------------------------|
| 都市構造再編集集中支援事業 | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 都市再生整備計画事業 | <input type="checkbox"/> |
| まちなかウォークアブル推進事業 | <input type="checkbox"/> |

目標及び計画期間

様式(1)-②

| | | | | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|-----|---------|----|--------|
| 都道府県名 | 福島県 | 市町村名 | いわき市 | 地区名 | ライオン平地区 | 面積 | 116 ha |
| 計画期間 | 令和 2 年度 ~ 令和 6 年度 | 交付期間 | 令和 2 年度 ~ 令和 6 年度 | | | | |

目標

- ・生活環境の充実によるまちなか居住の促進
- ・歴史・文化資源を活かした賑わいの創出

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)

●都市全体の再編方針

「人口構造を改善する都市機能を誘導し、“選ばれる都市”へ」

- ・人口減少が避けられないなか、いわき市が将来にわたって都市運営が可能な都市として、都市間競争に勝ち、多くの人から居住地として選択される都市を目指す。
- ・人口構造の改善を図り、将来にわたりまちの活力を維持していくことを目的として、主に若い世代を重点的な投資対象とし、活発な民間投資を誘発していく。
- ・本市を支えていく若い世代を中心に、中高年や高齢者にとっても暮らしやすい都市の実現を目指す。

まちづくりの経緯及び現況

●まちづくりの経緯

・当地区は、平成11年7月にいわき市中心市街地まちづくり基本計画を策定しており、もとより、中心市街地の機能回復、郊外への拡散の防止、公共交通の利用促進に取り組んできたところである。

・これまでの取組により、複数の市街地再開発事業や、いわき駅周辺地区再生拠点整備事業などが行われ、いわき駅周辺の大規模な開発により、いわき駅前の拠点性が向上した。また、それに合わせた駅前広場の整備等のインフラ整備事業により、鉄道とバスの乗り継ぎが円滑になるなど、公共交通の拠点としての利便性も向上した。さらには、いわき駅前地区第一種市街地再開発事業(ラトブ)と合わせて整備されたいわき総合図書館や、いわき市芸術文化交流館(アリオス)など、文化機能の向上にも努めた。

●現況(東日本大震災からの復興)

・平成23年3月11日に、世界でも類を見ない規模の東日本大震災が発生し、当市では、M9.0の大地震とそれによる大津波による被害に加え、原子力発電所の事故により、地域住民の避難、農作物の摂取制限や出荷停止、漁業の操業停止など、生活・産業基盤に甚大な影響を及ぼした。

・本市は、被災半年後に「いわき市復興ビジョン」を策定したのち、四次にわたり「復興事業計画」を策定し、復興施策・事業を進めてきたが、この中で当地区の復興に関しては、市内外の被災者の早期生活再建や、災害に強い街づくりを推進するため、防災機能を備えた集合住宅の整備(優良建築物等整備事業)等を行ってきた。

・しかしながら、現在、本市の中心市街地であるJRいわき駅周辺については、人口減少、高齢化の進展によるコミュニティの弱体化、郊外への大型店の出店、低未利用地の集積などによる商業・業務活力の低下、さらには、磐城平城跡地をはじめとする歴史的な文化資源がある一方で、市民は歴史や文化的な豊かさがあまり実感されていない現状にある。

課題

・人口減少、少子高齢化の進展により、地域のコミュニティの弱体化が懸念されることから、多様な人々にとって便利で快適に暮らせるよう、買い物環境をはじめとして、医療・子育て、高齢者支援など様々な生活環境を充実させ、まちなか居住を促進していくことが求められている。

・歴史的な文化資源の存在に加え、都市福祉施設などの整備を積極的に進めてきたが、歴史や文化の豊かさはあまり実感されていない状況にあることから、これら資源の相互連携を図りながら、魅力を高め、まちなかの賑わいを創出することが求められている。

将来ビジョン(中長期)

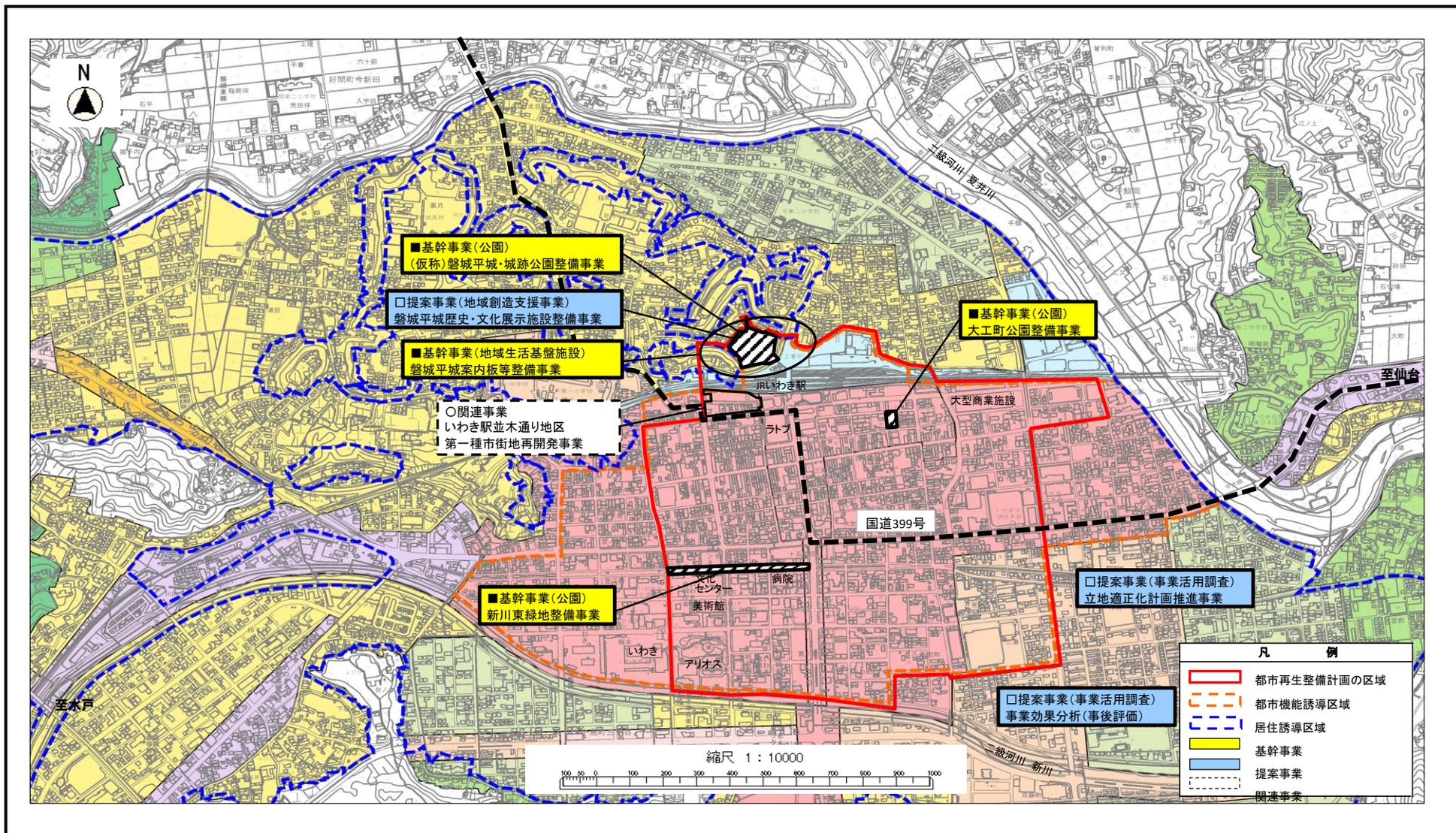
【いわき市中心市街地活性化基本計画(平成29年3月認定)】

テーマ：人、暮らし、文化を大切にす豊かさと活力とを備えた中心市街地

福島県を代表する中核都市の中心部という位置づけを踏まえて、人を大切にす暮らしや、広域の中心として求められる活発な社会経済活動、人が訪れたい魅力あるまちづくりの3つの視点から活性化に取り組む、豊かさと活力とを備えた、にぎわいのある中心市街地を目指す。

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|--|
| <p>【歴史・文化資源を生かした賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRLいわき駅北側の磐城平城本丸跡地を本市の歴史と文化を感じることができる公園として公有地化し整備するとともに、地区内の既存公園・緑地を安全で快適な歩行空間機能やまちなかにおける交流拠点機能を有する公園として再整備し、まちなかの魅力創出を図る。 ・公園の来園者に来園情報を伝えるとともに、利便性の向上及び「いわきの歴史」を知る機会の創出を図るため、磐城平城に関する案内板等の整備を行う。 ・磐城平城本丸跡地に整備する体験学習施設の空間を生かし、「いわきの歴史」を伝承(学び・伝える)ために必要な各種展示施設を整備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■(仮称)磐城平城・城跡公園、新川東緑地、大工町公園(基幹事業/公園) ■磐城平城案内板等整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設/情報板) □磐城平城歴史・文化展示施設整備事業(提案事業/地域創造支援事業) □立地適正化計画推進事業費(提案事業/事業活用調査) |
| | |
| | |
| <p>その他</p> | |
| <p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の整備改善及び活性化等を図るため、平成27年3月に「たいらまちづくり会社」が設立され、これまで、いわき市制施行50周年に合わせて実施された、磐城平城「復活一夜城」プロジェクトや、磐城平城さくらまつりなどの市民参加型イベントが実施されている。 ・大工町公園については、公民連携による整備計画の検討や、公園の活性化に関する協議会(都市公園法第17条の2)の設置検討等の取り組みが進められている。 <p>【都市防災のあり方の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の激甚化する自然災害等に対応するため、都市防災のあり方を検討調査し、「いわき市立地適正化計画(令和元年10月公表)」に防災指針を追加する。 | |

| | | |
|--------------|--------------|---|
| 平地区(福島県いわき市) | 面積 116 ha | 区域 いわき市平字旧城跡、字大工町、字中町、字堂根町、字十五町目、字小太郎町、字田町の一部等 |
|--------------|--------------|---|



平地区(福島県いわき市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

| | | | | | |
|----|---|--------|--------------------|---------------------|------------------|
| 目標 | ・生活環境の充実によるまちなか居住の促進 ・歴史・文化資源を生かした賑わいの創出 | 代表的な指標 | 中心市街地の居住人口 (人) | 4,133 (H28年度) → | 4,400 (R6年度) |
| | | | 主要歴史・文化施設の入込客数 (人) | 1,226,198 (H27年度) → | 1,263,000 (R6年度) |
| | | | () | () (年度) → | () (年度) |

